

理想は、町全体が「恋人の聖地」になっていくこと

第2章

展望

「宿泊客の獲得だけが本企画の目的ではない。最終的には、町全体が恋人の聖地として認知されること。町全体がうるおっていくこと。商工会青年部として、やるだけのことをやってみよう」と話す大村善彦さん。本企画への意気込み、今後の展望などを聞いた。

観光地として今後も生き残っていただくために

現在寸又峡・接岨峡では、宿泊客が減少しています。これは寸又峡や川根本町に限ったことではなく、全国どこでも見られる傾向です。近年の観光客は、1回の旅行であちこち見て回りたいから、日帰りが多い。また海外へも安価で行ける時代です。国内の観光地が苦戦を強いられるのも無理はありません。

寸又峡は周遊できる観光地ではありません。静岡や島田方面から来てくれたお客さんは、ここで行き止まり。どこかに向かうのではなく、もともと来た方向に戻っていくしかないのです。隠れた秘境のような場所。そこに価値観を見い



川根本町商工会青年部部長
大村善彦さん

出してくれるお客さんももちろんいますが、万人向けでないのも確かです。

今後、わたしたちが観光地として未永く生き残っていくためには、ほかの観光地と明確な差別化を図っていくことが重要です。

吊り橋を、2人の愛を深めるアイテムに

この町に古くからある吊り橋を活用し、これまでと違った視点でつくった本企画。ここならではの特色あるプランだと思えます。何より、本町のこれからの担って行く若者たちが企画を立ち上げ、内容を練り、実行することに大き

な意味があると思っています。本町を訪れたカップルに、吊り橋を探しながら町内を巡ってもらおう。互いの意見を尊重するときもあれば、逆に喧嘩になってしまうこともあるかもしれません。しかしそれもまた、いい思い出になっていくはず。ゆらゆら揺れる吊り橋の上で手を取り合い助け合いながら、愛を深めていってほしい。何力所か吊り橋を巡ったところには、これまでよりさらに親密なカップルになっていることでしょう。

吊り橋を探していく途中で

は、地元の人たちと交流も期待できます。「このパンフレットの吊り橋はどう行けばいいんですか？」など、会話も生まれると思います。ただ景色や施設を見て歩くだけの観光にはない大きな魅力だと思います。

理想は、この町全体が観光案内人になれること

寸又峡は本町の一番奥まった位置にあります。ここに来てもらえれば、その途中の地区にも立ち寄ってもらえる可能性がある。吊り橋は町内に散らばっていますから、町全

体がうるおい、活性化につながっていくと思います。

今の時代、お客さんを待たなくても、向こうからやってきてはくれません。こちらから攻める姿勢が必要です。本企画は、そのための一つのきっかけ。多くの人を巻き込んで、ゆくゆくは町全体のやる気につなげていければと思っています。

理想は「まち全体が案内人」になるということです。その辺を歩いている地元住人に、カップルが「この吊り橋はどこにありますか？」と訪ねた時に「そんなもの知らないよ」

御前埼灯台周辺を活用して「恋人の聖地」を実現する・御前崎市



静岡県の最南端にある御前崎市。岬の先端にある御前埼灯台や御前埼ケーブルパークにある恋人の聖地「潮騒の像」には、年間を通じて大勢のカップルが訪れる。カップルは灯台や潮騒の像から太平洋を望み、大自然を満喫する。さらに水平線へ沈む夕日がありなす幻想的な光景に酔いしれながら互いに思いを語り合う。

これらの施設は御前崎の観光名所となっている。灯台のふもとで飲食店『紀行茶屋』を営む山中みさ江さんは「この場所で営業できるのは、灯台や潮騒の像へ観光客やカップルが大勢訪れてくれるから」と語る。

御前崎では以前から、自然や景観を生かした観光が周辺地域にうるおいを与えている。そしてそこに住む人たちも胸を張って案内できる「自慢の名所」となっている。

※灯台の名前は御前埼灯台

取材協力
御前崎市秘書広報課
山崎良さん



Only one オンリー・ワン

ここにしかない資源を生かし、新しい発想で勝負する川根本町商工会青年部の挑戦